

新基地建設反対名護共同センターニュース

新基地建設を止める新たな起点に！

土砂投入4年 辺野古の浜で抗議集会



当初、海上の新基地建設現場のK8護岸付近で集会を計画していましたが、海のうねりが強い浜での集会となりました。ゲート前で座り込んでいた50人も合流しました。

へり基地反対協議会の海上チームは14日、辺野古の海に土砂が投入されて4年目にあたり辺野古の「松田の浜」で抗議集会を開催、160人が参加しました。へり基地反対協の仲村善幸共同代表は「新基地建設を止めるため、今日を新たな起点としよう」と訴えました。オール沖縄の高里鈴代共同代表は「一人ひとりの決意と勇気が埋め立てを止めている」と激励しました。塩川港で土砂搬出に抗議を続ける本部島ぐるみ会議の原田みきさんが11月の「塩川デー」の成果を報告、「人が多く集まれば、新基地建設を止めることができる」と連帯の挨拶をしました。

カヌーチームのメンバーがリレートーク。「初めて土砂が投入されたときは悲鳴が上がった。しかし、私たちはあきらめない。完成のめども立たない工事を続ける姿勢は疑問だ。『私たちは小石や小枝のような存在だが、政府の大きな力を止めている』、『来年は勝利して集まろう』などと声を上げました。

「敵基地攻撃能力」を保有 安保3文書を閣議決定



敵基地攻撃NO！銀座で宣伝行動
基地のない平和な沖縄をめざす会は15日、日本平和委員会と共同し、今年最後の宣伝行動を銀座で行いました。(通信・長谷部洋子さん)

戦争と軍拡への道許さない
各弁士は憲法違反の安保3文書を批判し、「沖縄では南西諸島へのミサイル配備、自衛隊基地の建設、日米共同演習も始まりました。軍備の増強は戦争を呼び込みます」との訴えに、宝くじ売り場に列をつくる人も耳を傾け、行き交う人から署名がいつもより多く集まりました。

インボイス制度は中止に
名護民商が浦野税理士迎え講演会
名護民主商工会は16日、浦野広明税理士を迎え消費税のインボイス問題を中心に講演会を開催、昼夜2回で106人が参加しました。

浦野税理士(写真正面)は、税務調査やインボイス、マイナンバー対策などに関わって納税者の権利を守る立場での法制度や考え方について縦横に話しました。「インボイスがなければ仕入れ税額控除はできない」は訓示規定(税務署の願望)に過ぎない。インボイス制度は中止、形骸化しかありえないと強調しました。



「学習したことを伝えたい」民青同盟員が辺野古を視察



写真上は、辺野古の浜で視察する同盟員たち。写真下は、大浦川を視察。写真加工は編集部です。

首都圏の民主青年同盟の班員6人が10日、共産党地区委員会の青年担当者と共に辺野古新基地のたまたかの現場を視察しました。新基地建設反対名護共同センターのスタッフの案内でキャンプ・シユワブゲート前や辺野古の浜、大浦湾、マンングローブなどを視察、たたかひの現状の説明を受けました。本土に帰って開いた班会で、次のような感想が出されました。

「若い人が来てくれて嬉しい」と言われた
● Aさん きれいな海を埋め立てるなんておかしいと思った。沖縄に行つて歴史を学ぶ必要があるとおかしいと思いました。

● Mさん コ番印象的だったのは大浦湾を臨むビーチに大きなサンゴの死骸が打ち上げられていた事です。ブイを固定するために打ったアンカーが原因と聞いて、基地を作ることが環境破壊になる現実を知りました。また、テントを管理する方から、若い人が学習に来てくれるのは嬉しいと言っていました。学習した事を伝えていきたいと思つています。沖縄の歴史や、たたかひを良く知りもしない人物が、平気で揶揄する発信をしているだけに。(※10月に辺野古の座り込みを誹謗したユーチューバーのひろゆき氏のこと)

● S君 シュゴンが生息する貴重な海を埋め立てるなんておかしい。大浦川のマンングローブを見て基地は環境を壊すと思った。あと、かつて核兵器も貯蔵(今も有るかも)弾薬庫が有るのを見て怖いと思つた。

● C君 現場を見て、メディア等が安全保障のために必要だと流しているが、こんな基地があれば、真つ先に攻撃されるのは沖縄の人達だと思つた。生活をも脅かされている沖縄の人達がたたかひに立ち上がっている事を伝えていきたい。